

初学者のための 「発表スライド」の作り方

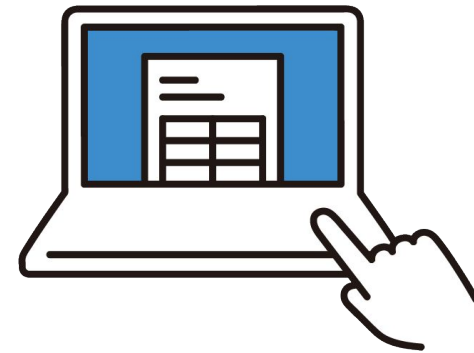
一般社団法人群馬県理学療法士協会 学会部



当資料の目的

学会の発表スライド作成において

- ✓ 見やすい資料のポイントを理解できること
- ✓ 発表スライドの作成に活用できること



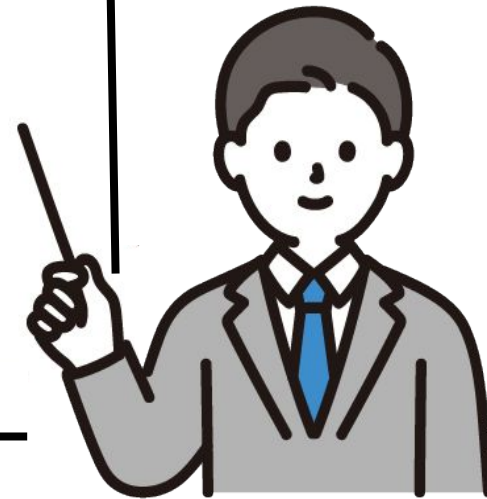


スライドの作成にあたって

学会発表においてスライドは、
「言語のみでは理解しづらい内容を、視覚的手段を用いて効果的に伝達する役割」を担っています。

スライドを作る前に、どんな内容を、どのように伝えるかを整理して、全体の流れをイメージしておきましょう。

また、次のページにある確認事項も事前にチェックしておくとスムーズです。



学会規定や参加者の確認



- ・発表時間はどれくらい？
- ・聴講する人は(PT？, それ以外？)？
- ・スライド枚数の指定は？
- ・動画の使用はOK？
- ・COI開示の義務は？
- ・パソコン(OS)の種類の指定は？

(変換器の持参を指示する学会があります)

- ・資料作成ソフトの指定は？

(PowerPoint に限定する学会もあります)

群馬県理学療法士学会では

- ・発表は口述発表(Microsoft Power Point)
 - ・発表7分間、質疑3分間
 - ・利益相反について発表時に必ず開示
- 「利益相反(Conflict of Interest: COI)の開示に関する基準」に準拠 など

***変更となる場合があるため、必ず学会HP等で確認する**

応募・発表にあたり様々な決まりがあります
募集要項を確認してみましょう！

例)なし

第〇〇回 群馬県理学療法士学会 COI開示

***タイトルの次のスライドに入れることが多い**

本演題に関連し、発表者らに開示すべき利益相反はありません

発表者名：群馬太郎、高崎二郎、前橋三郎

例)あり

第〇〇回 群馬県理学療法士学会 COI開示

本演題に関連し、発表者らが開示すべきCOI関係にある企業などとして、

①顧問	なし
②株保有・利益	なし
③特許使用料	なし
④講演料	なし
⑤原稿料	なし
⑥受託研究・共同研究費	〇〇株式会社
⑦奨学寄附金	〇〇株式会社
⑧寄付講座所属	なし
⑨試薬・機器・役務当の供与	あり(〇〇株式会社)
⑩特別な便益の提供	なし

発表者名：群馬太郎、高崎二郎、前橋三郎

スライド枚数

①発表予定の学会規定を確認する

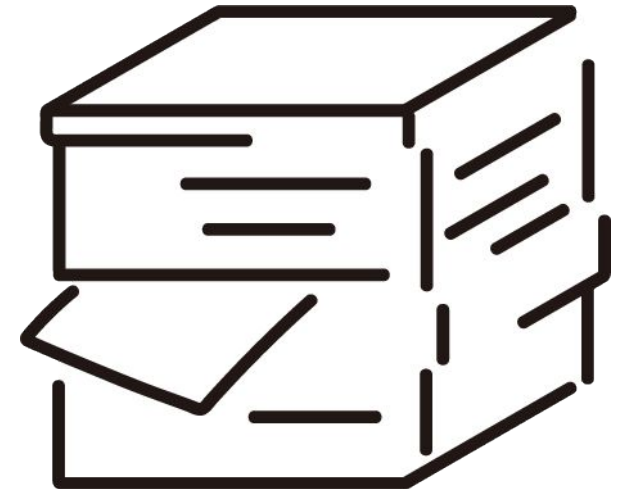
(枚数制限がない場合が多い)

②増やしすぎない

スライド1枚につき1分程度

発表時間7分であれば、**7～11スライド程度**

(あくまで目安)



スライドの構成(各項目の配分量)

研究報告:

はじめに

目的

対象

方法

結果

考察(限界含む)

結論

症例報告:

はじめに

症例紹介

介入内容

経過

最終評価

考察(限界含む)

結論

スライド数の目安

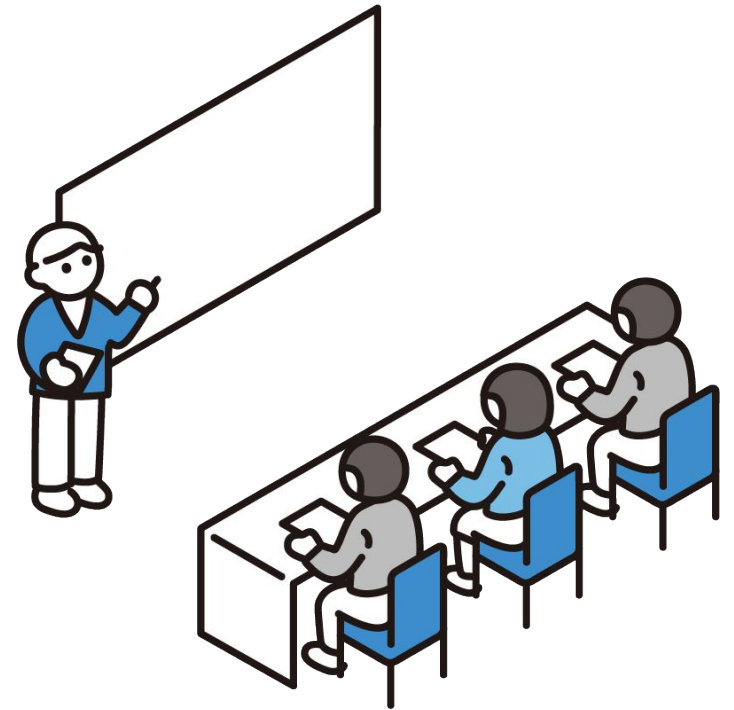
2枚

1~2枚

1枚

作成における4つのポイント

- ①徹底して情報を絞る
- ②脳にやさしい見やすい配置
- ③スライド内の要素を整える
- ④図表の選択



作成における4つのポイント

①徹底して情報を絞る

②脳にやさしい見やすい配置

③スライド内の要素を整える

④図表の選択

①

- ✓ 1スライド 1メッセージ
- ✓ 文字やイラストは最低限に
- ✓ 不要な装飾は避ける

多職種連携が 非常に重要である



NG例

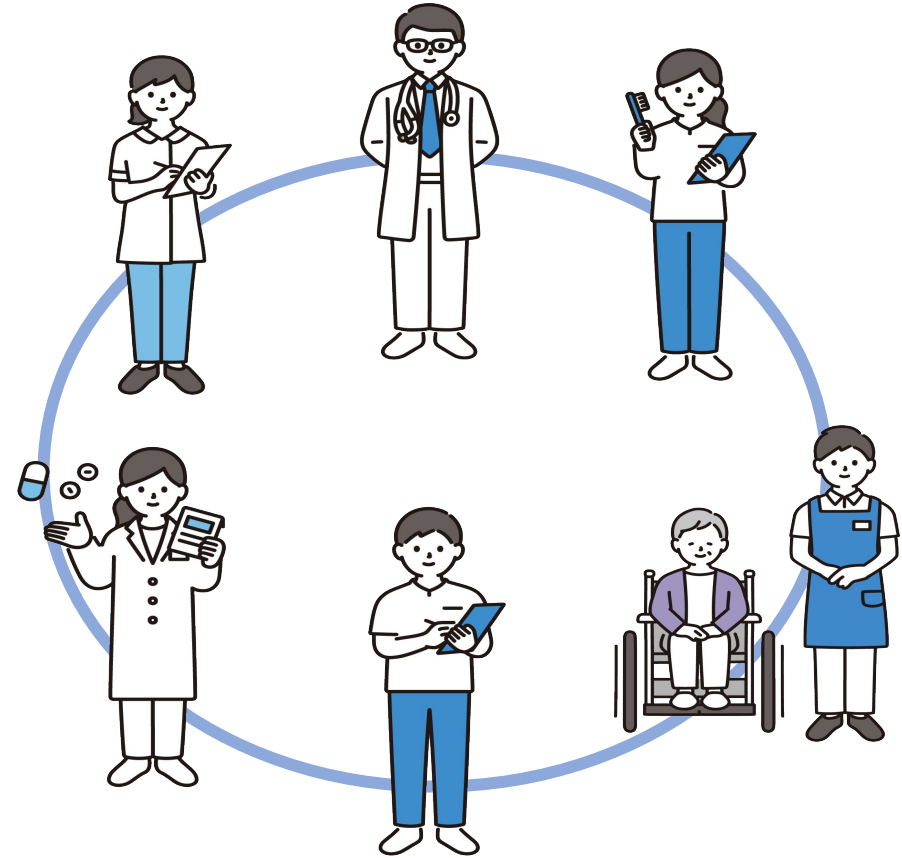
メッセージが複数ある

専門知識・スキルを発揮することで
効率的なサービスを提供できる

OK例

メッセージが1つだけ

多職種連携により
「質の良い医療・介護」
を提供することができる

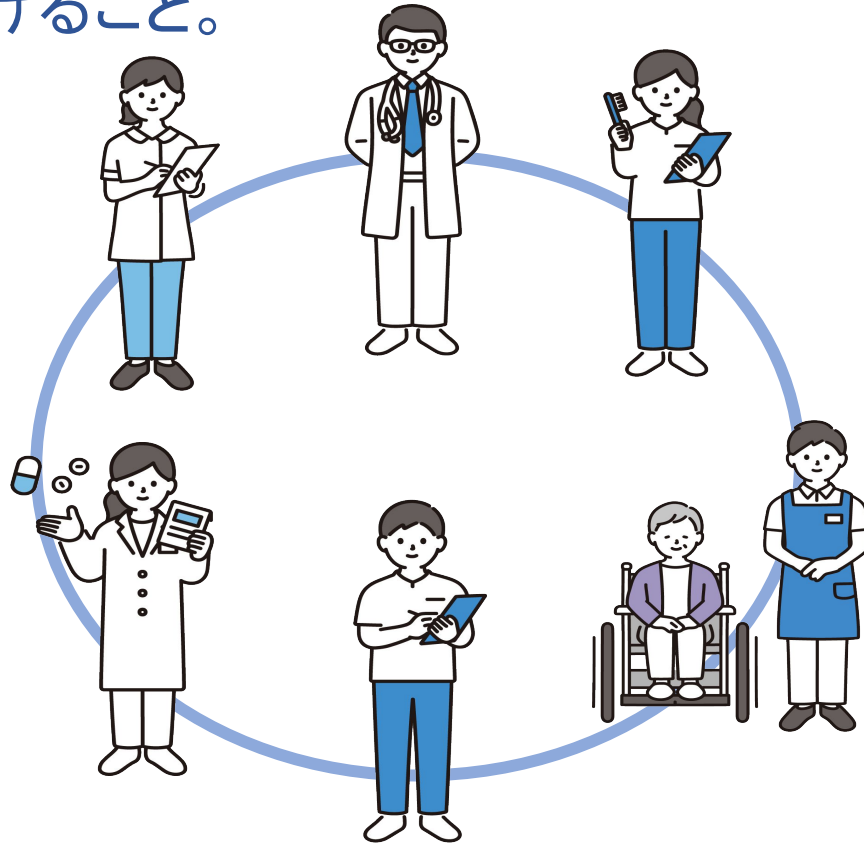
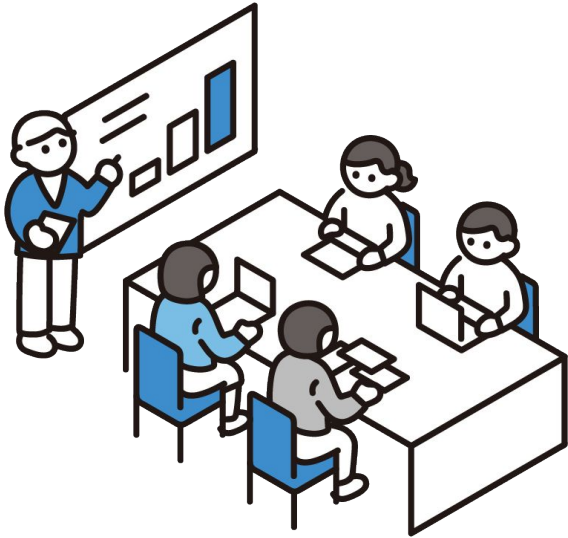


多職種連携とは

医療や介護、福祉に関わる

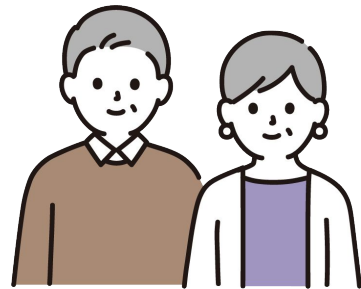
さまざまな専門職種が互いの専門性を活かし、
一つのチームとして地域に働きかけること。

必要とされるケアについて
情報を共有し、解決すべき課題を
見つけアプローチしていく。



NG例

文字やイラストが多い

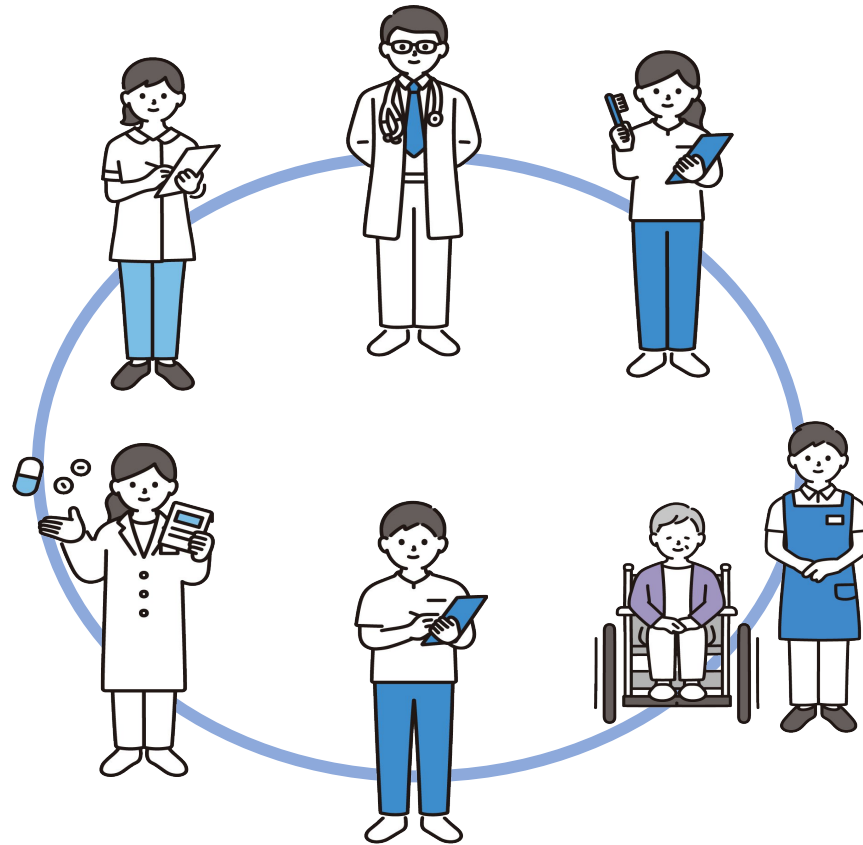


【多職種連携とは】

さまざまな専門職種が**互いの専門性を活かし、**
解決すべき課題を見つけ**包括的にアプローチ**すること。

OK例

文字やイラストは最低限に



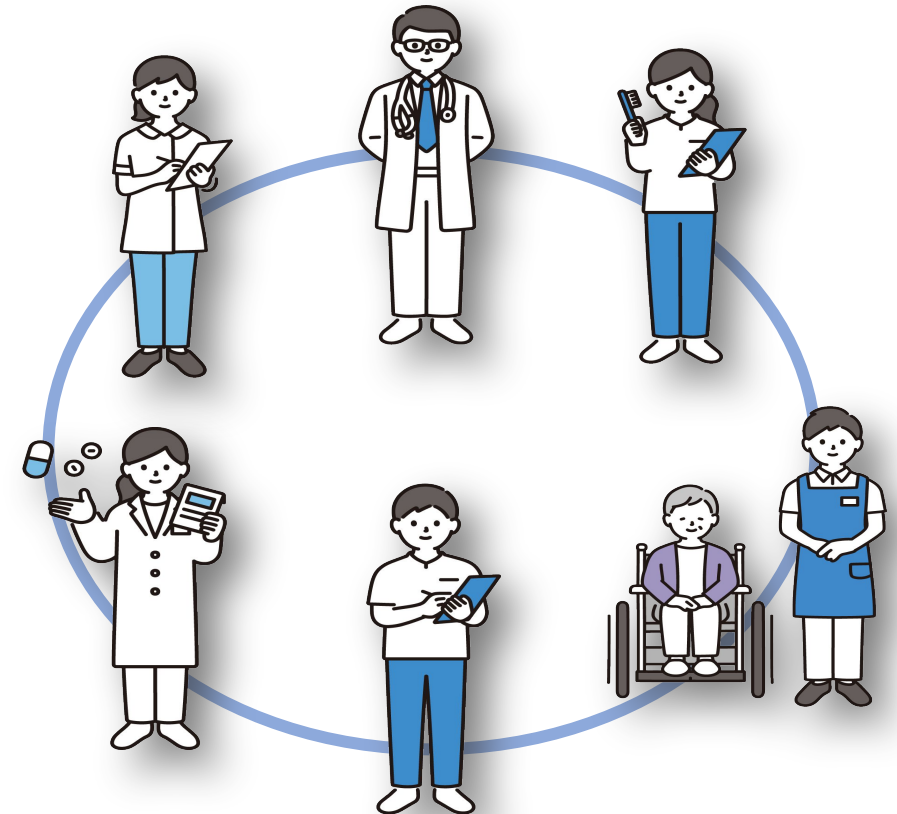
多職種連携とは



さまざまな専門職種が**互いの専門性を活かし**、
解決すべき課題を見つけ**包括的にアプローチ**すること。

NG例

多色・枠線・影など
統一感がなく煩雑



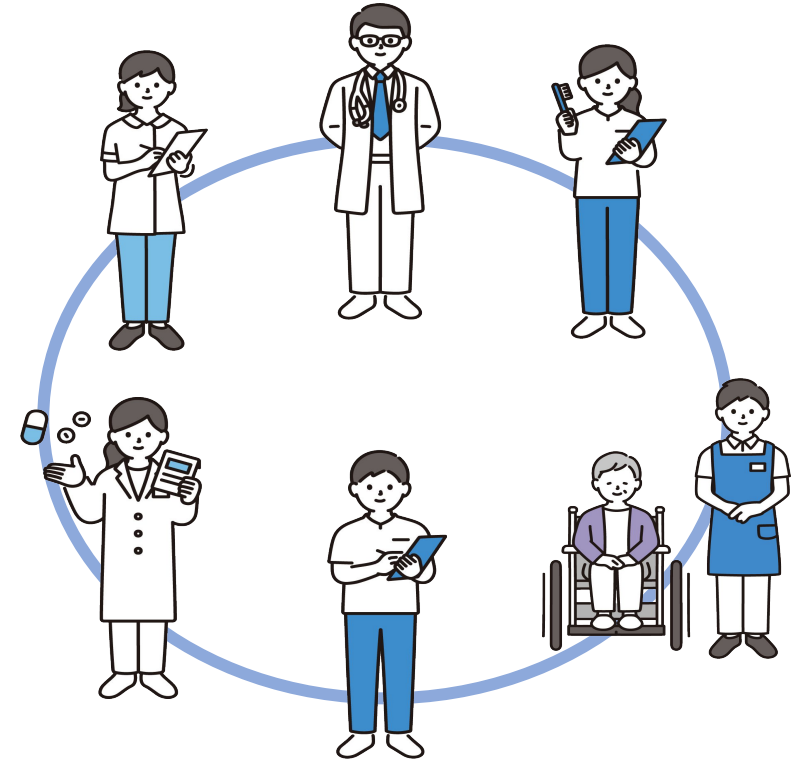
多職種連携とは

さまざまな専門職種が**互いの専門性を活かし**、
解決すべき課題を見つけ**包括的にアプローチ**すること。

テーマや強調したい部分がわかりやすい

OK例

色や影、枠線などは最低限



作成における4つのポイント

①徹底して情報を絞る

②脳にやさしい見やすい配置

③スライド内の要素を整える

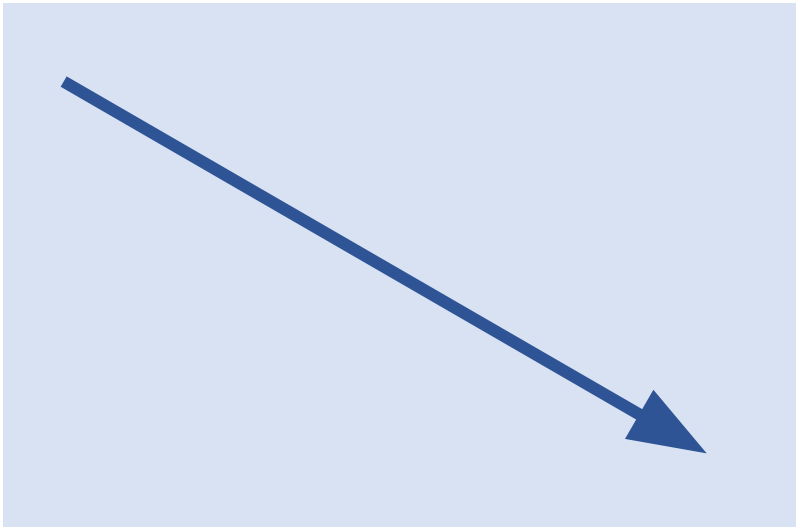
④図表の選択

②

- ✓ 重要なこと、概要は上
- ✓ 過去、イメージは左
- ✓ 関連性が高いものは近くに

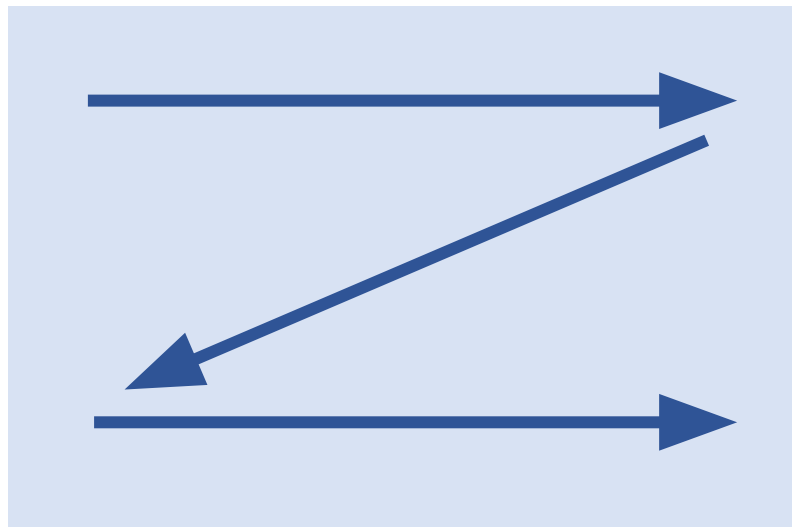
人の**視線**の動きとして
左上から右下に流れる習性があるといわれています。

ゲーテンベルク・ダイアグラム



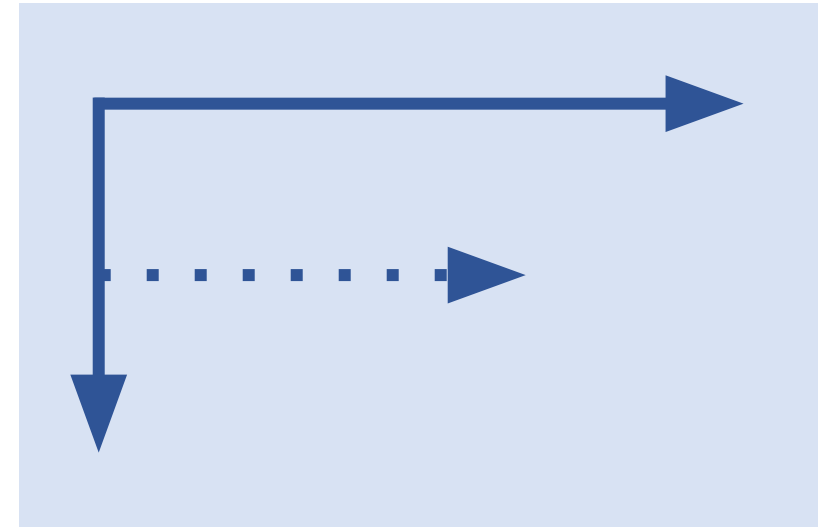
流し見をする場合
基本的にはこの動き

Zの法則



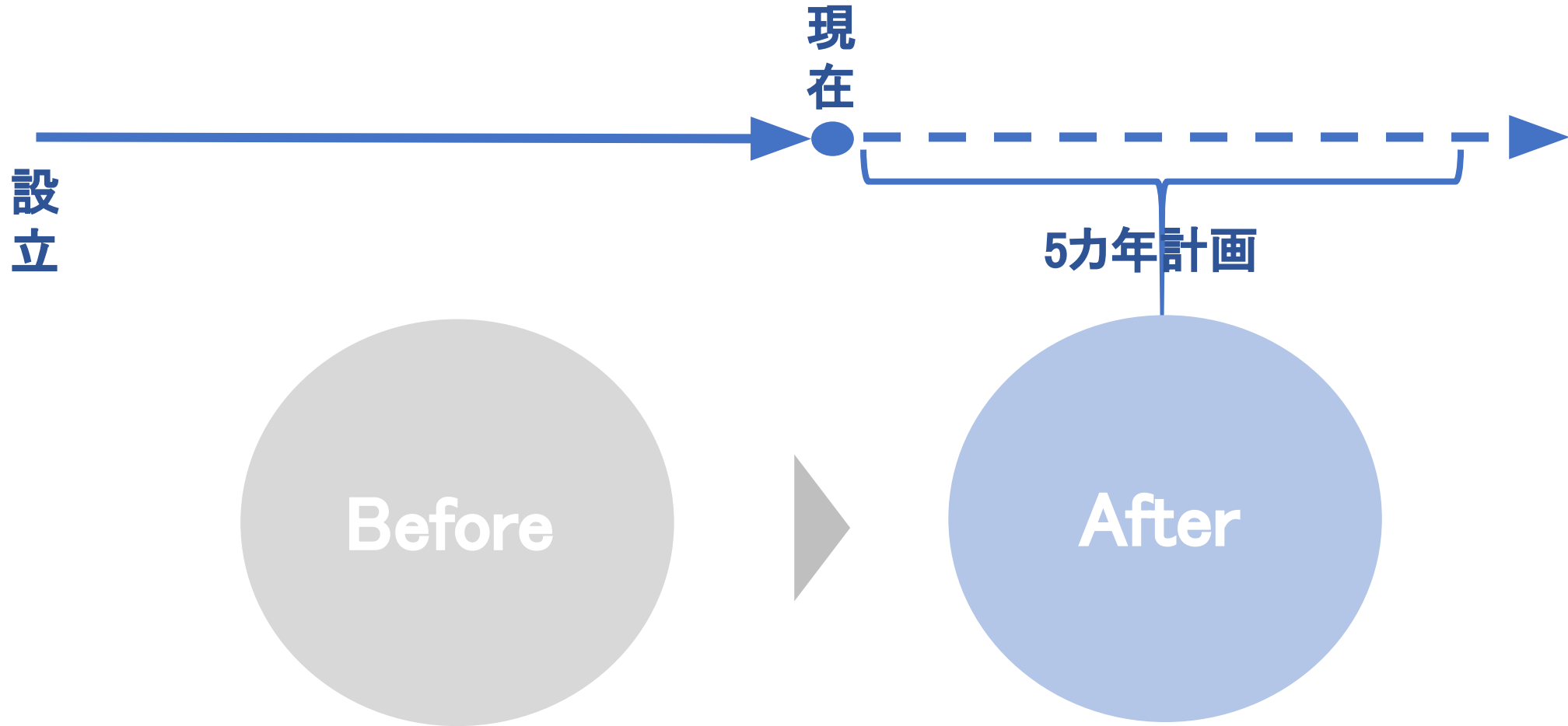
情報が多くまんべんなく
読み込む場合

Fの法則



表など、情報が
詰まっているものを
読み飛ばしする場合

視線の流れは**左から右**になりますので、
時系列のある内容は**過去を左、現在を右**に配置します。



まず左側から情報を得るため、
感覚的に想起させる図や写真など、**イメージは左側に配置** する。



文章

作成における4つのポイント

①徹底して情報を絞る

②脳にやさしい見やすい配置

③スライド内の要素を整える

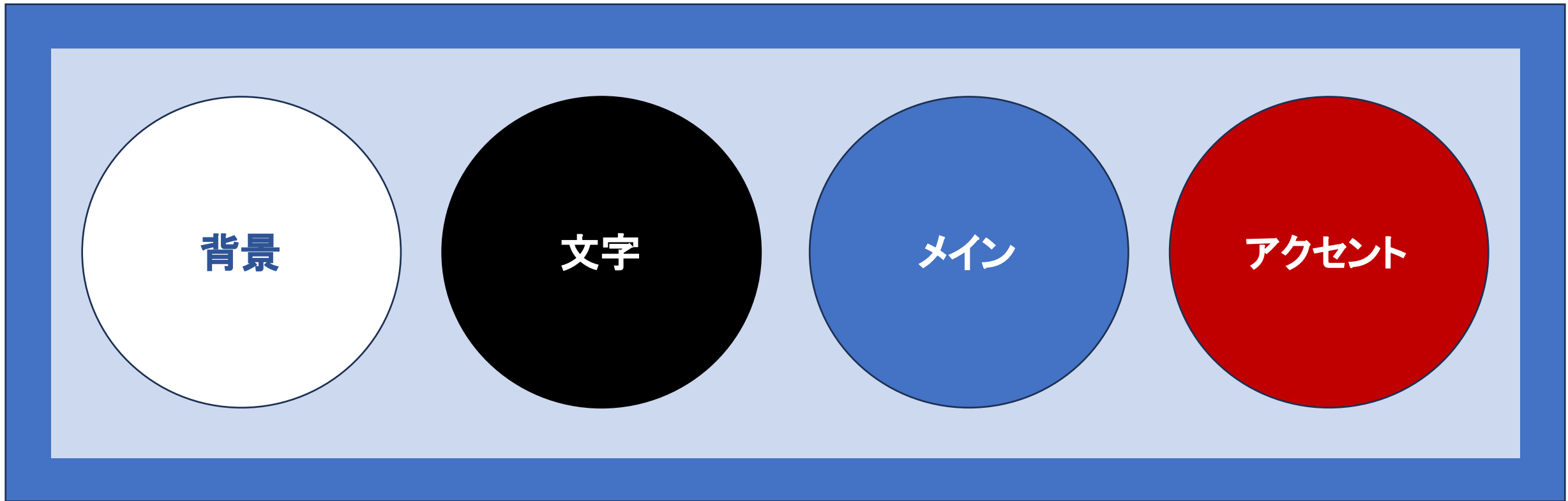
④図表の選択

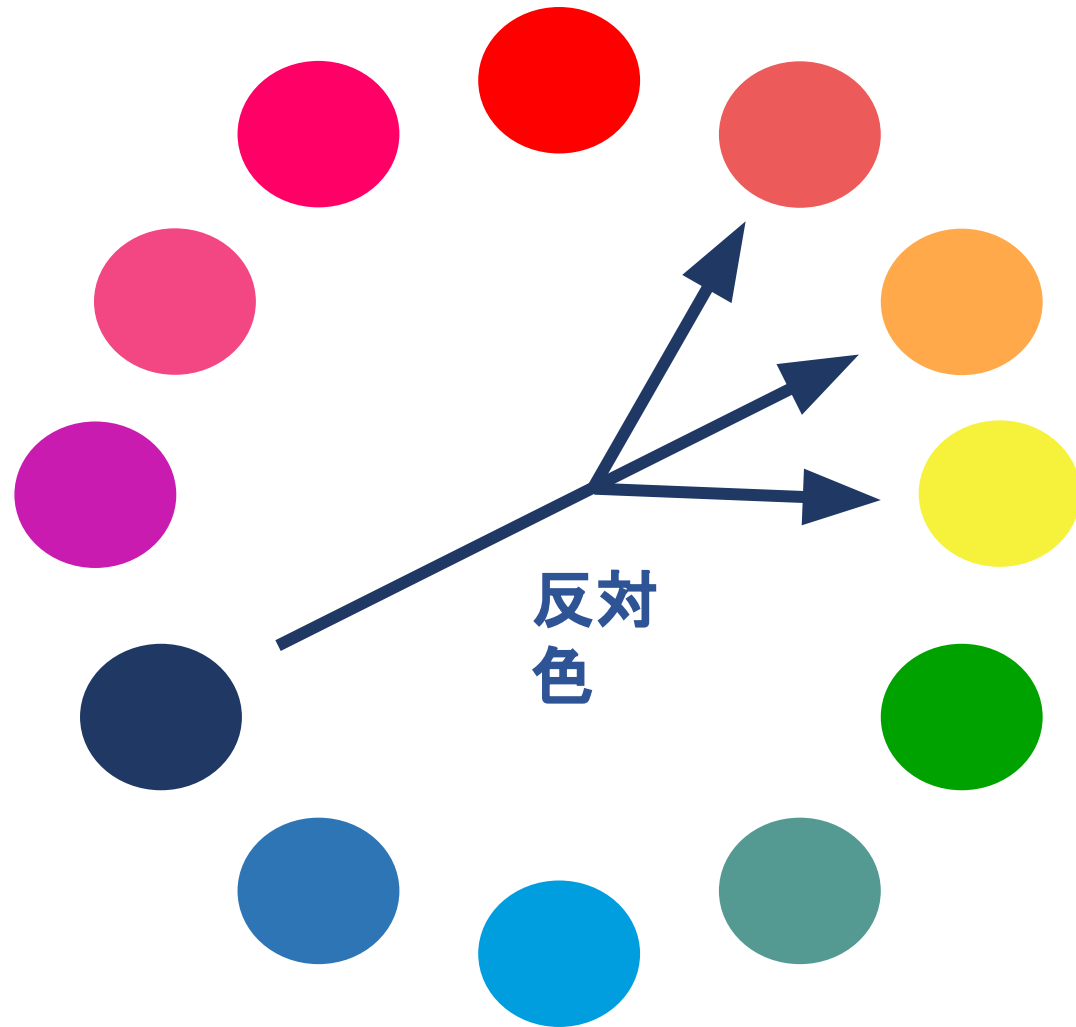
③

- ✓ 色の役割を決める
- ✓ 揃えることに徹底する
- ✓ 文章を読みやすくする

使用する色は数を絞り、それぞれの**役割を明確に**！

【例】





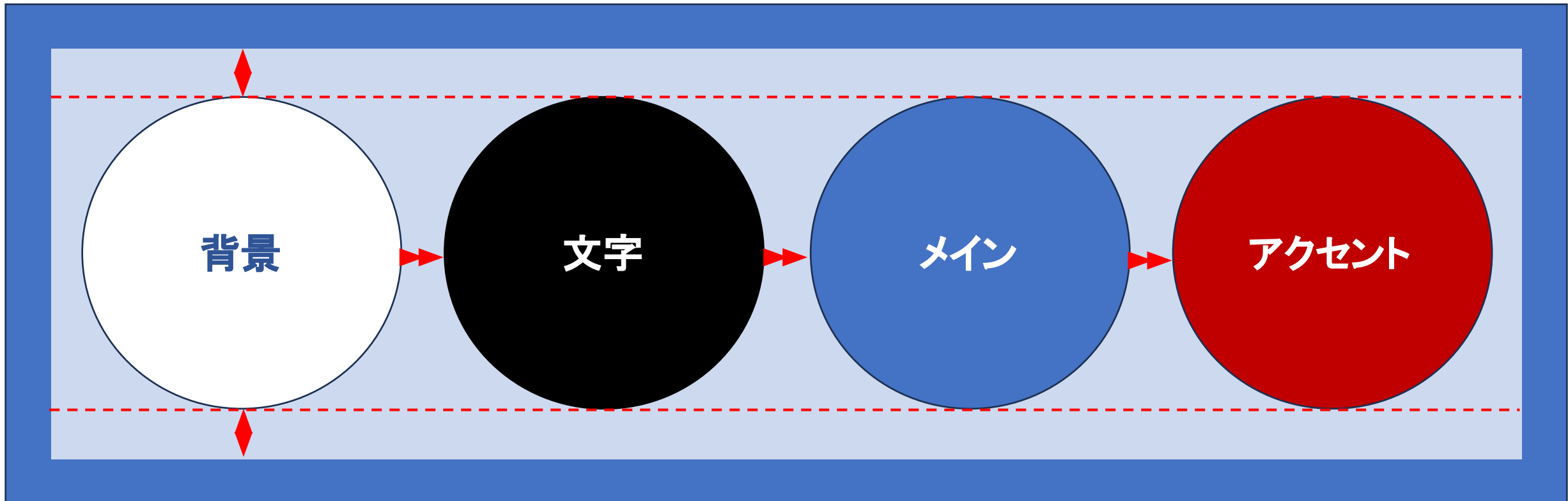
「カラーの選定方法」

メインカラー は企業や団体をイメージするカラーを選定するのが一般的です。

アクセントカラー はメインカラーの反対色から選ぶと引き立ちます。

揃えることに徹底しましょう！

大きさや配置が揃っていないと、整っていない印象や間違った認識を生む可能性があります。



文章の読みやすさを意識しましょう！

NG例

単語の途中で改行してしまうと読みにくくなって
しまいます。

できる限り文章が読みやすい位置で改行し、
バランスが悪いときは言い回しを調整しまし
う。

行間、文字揃え(左・中央)、余白も意識するよ
うにしましょう。

OK例

単語の途中で改行してしまうと
読みにくくなってしまいます。

できる限り文章が読みやすい位置で改行し、
バランスが悪いときは言い回しを調整
しましょう。

行間、文字揃え(左・中央)、余白も
意識するようにしましょう。

作成における4つのポイント

①徹底して情報を絞る

②脳にやさしい見やすい配置

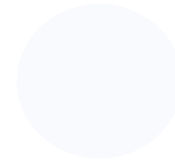
③スライド内の要素を整える

④図表の選択

④

提示したい情報によって
使い分けをする

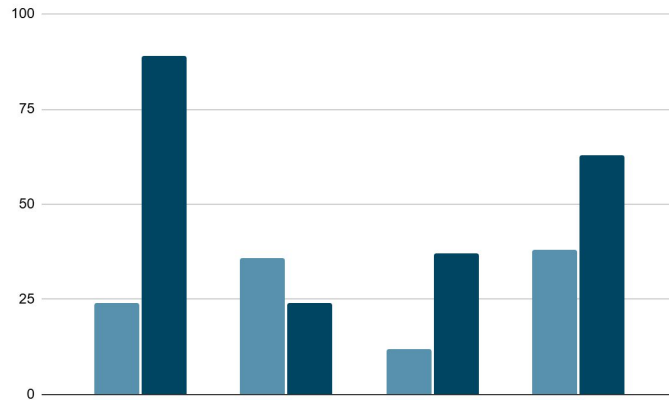
スライド作成で図表のどちらを選択する？



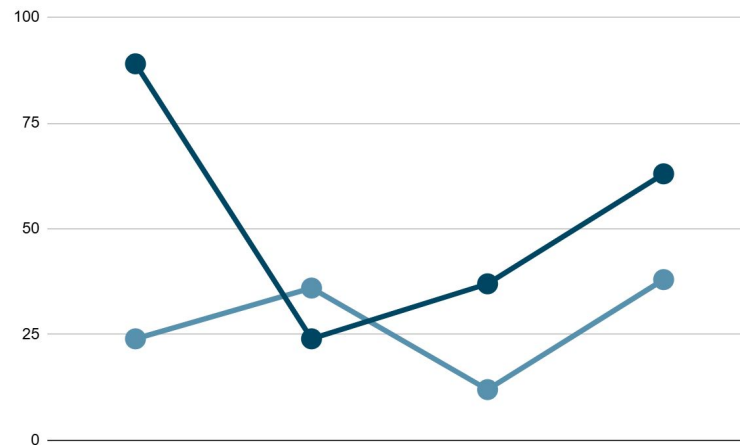
	メリット	デメリット
図	傾向や変化を直感的に理解できる。 定性的な結果や複雑な情報を表現できる。	数値を正確に読み取ることが難しい。
表	数値を正確に比較できる。 多くのデータを整理できる。	傾向や変化を把握しにくい。

図(グラフ)で示したいものは？

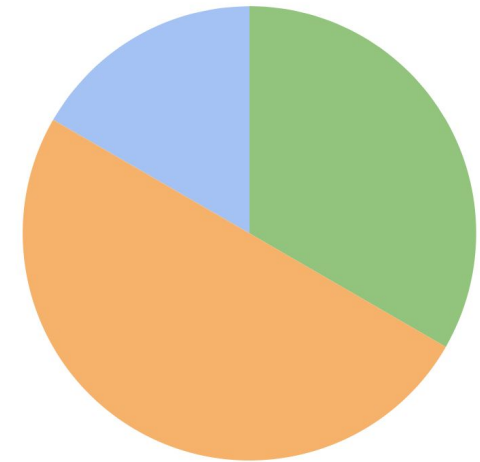
差



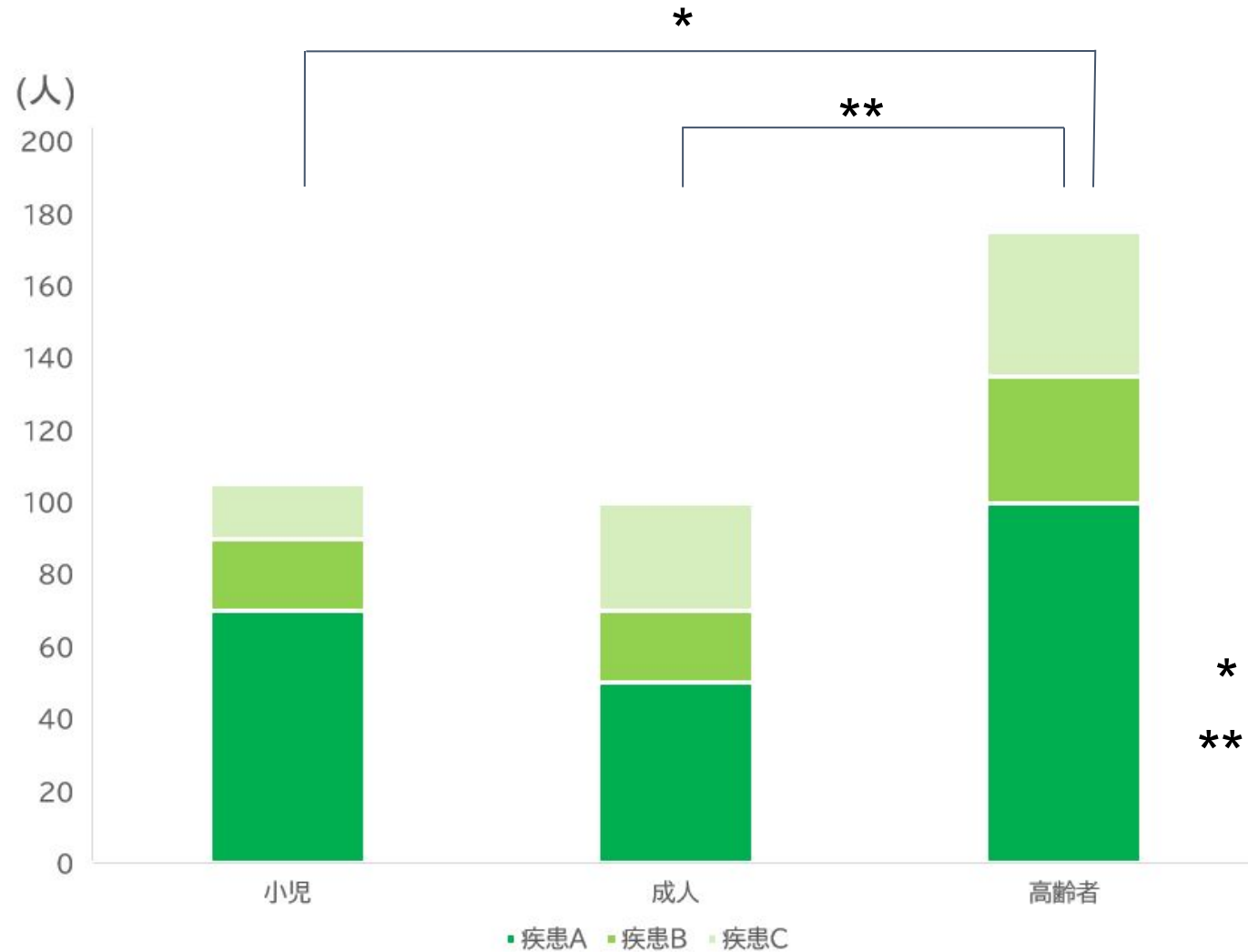
変化



割合

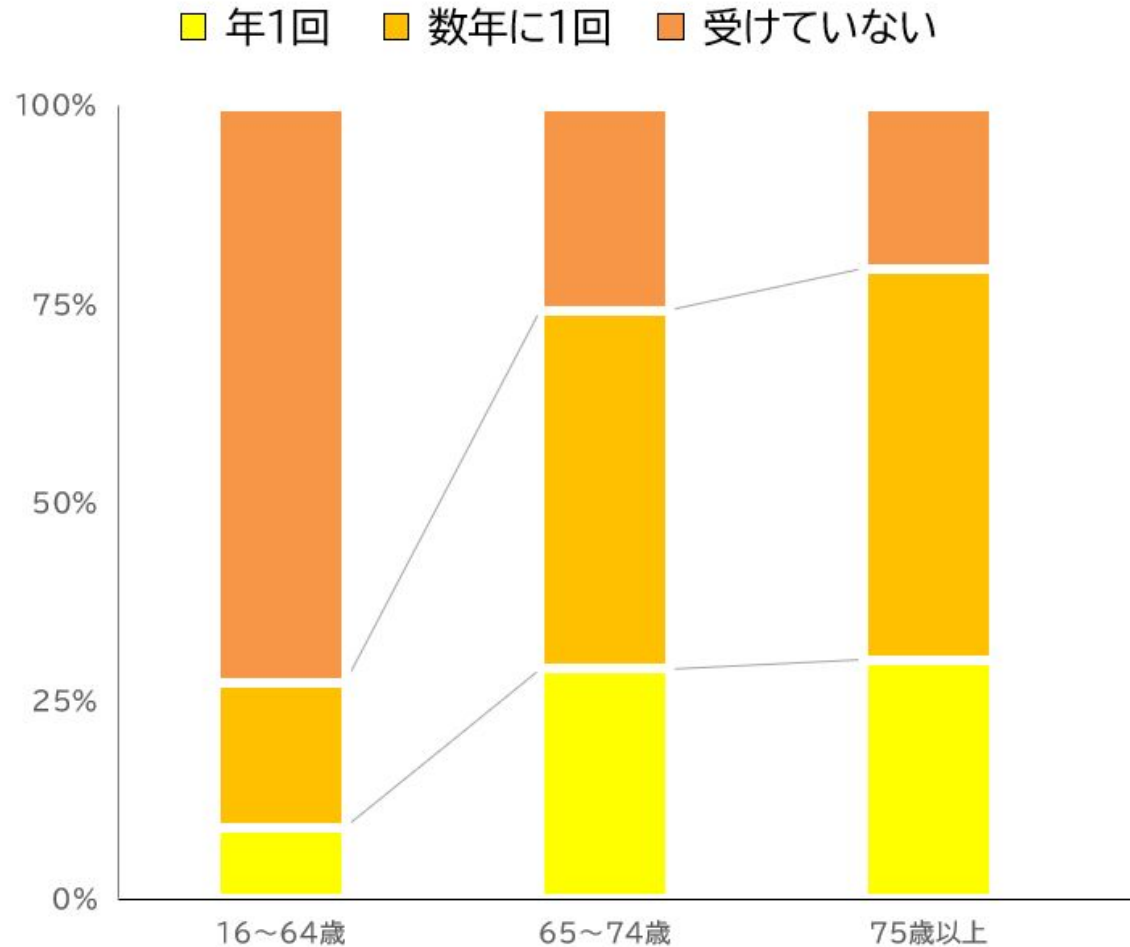


例) 群別に「差」を示すには？



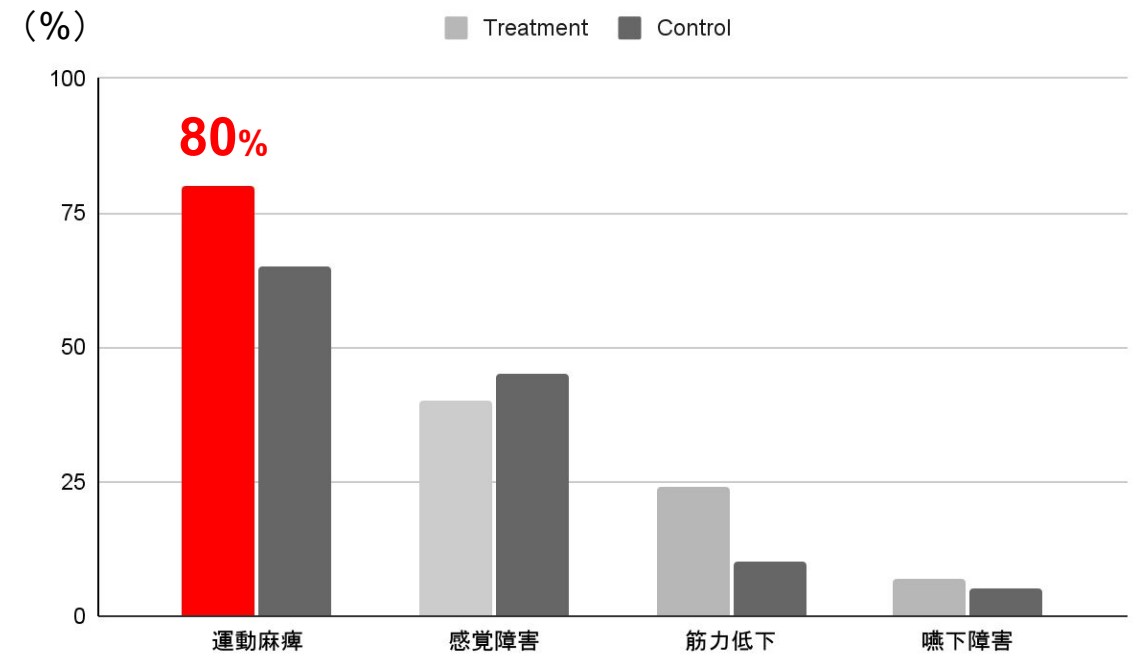
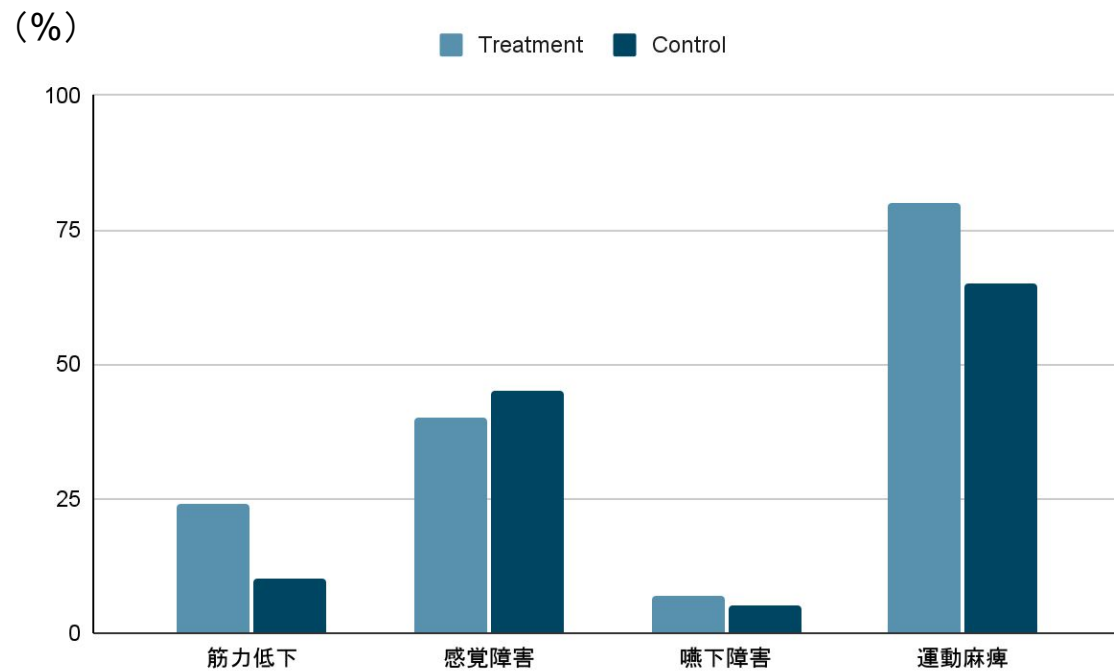
積み上げ棒グラフ

例)「差」と「割合」を同時に示すには？

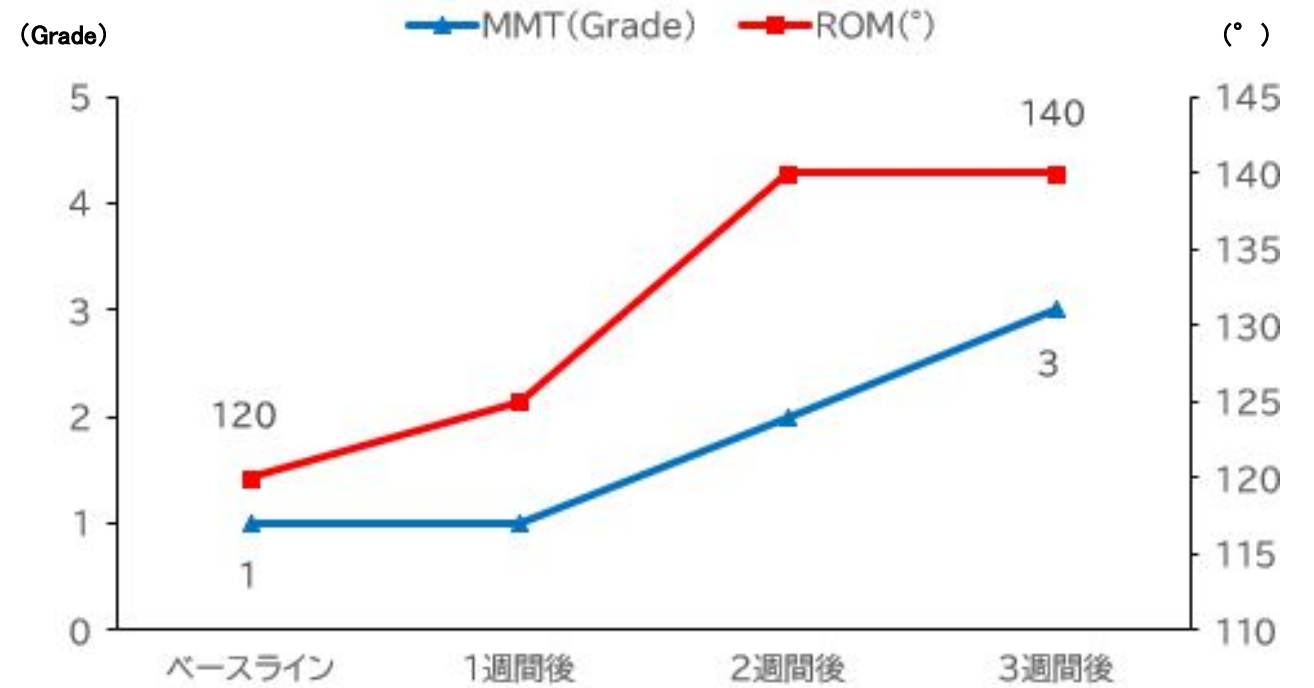
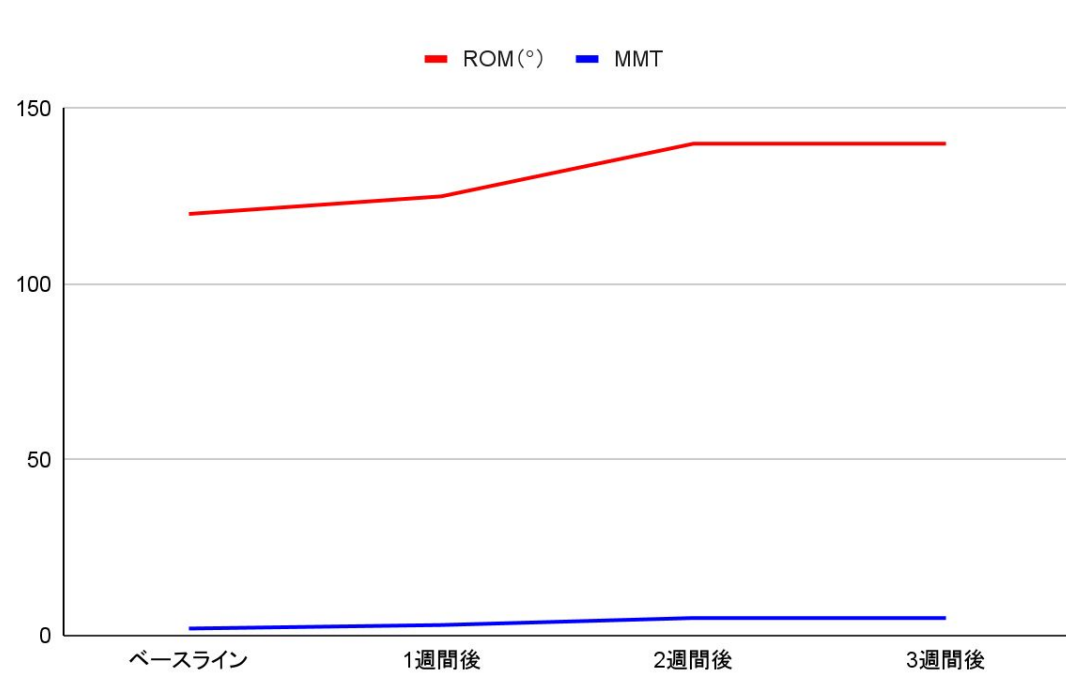


100%積み上げグラフ

例) 見やすくしたグラフ



例) 見やすくしたグラフ



数値の大小を調整するには、「第2軸」を選ぶ



例)見やすい結果の示し方(表)

【検査結果】

ROM: 股屈曲 120°、股伸展 5°、膝伸展 0°、膝屈曲 145°、足背屈 0°、足底屈 30°

MMT: 股屈曲 5、股伸展 3、股外転 2、膝伸展 4、膝屈曲 4、足背屈 3、足底屈 4

バランス: 片脚立位時間 15秒、FRT 15cm、BBS 32点、TUG 19.5秒

歩行: 10MWT 16.5秒

羅列は見にくい場合が多い

例) 見やすい結果の示し方(症例報告の表)

	ベースライン	2週間後	最終評価
ROM			
股屈曲	120	130	130
股伸展	0	0	5
MMT			
股屈曲	3	4	5
股伸展	2	3	4
バランス			
BBS	32	36	45
TUG	19.5	17.0	15.5



	ベースライン	2週間後	最終評価
ROM, (°)			
股屈曲	120	130	130
股伸展	0	0	5
MMT, (Grade)			
股屈曲	3	4	5
股伸展	2	3	4
バランス			
BBS, (点)	32	36	45
TUG, (秒)	19.5	17.0	15.5

罫線は横線だけ、単位を忘れずに!

ROM: range of motion, MMT: manual muscle test, BBS: berg balance test, TUG: timed up and go test.

例) 見やすい結果の示し方(研究報告の表)

	介入群(n=25)			対象群(n=23)		
	介入前	介入後	p-value	介入前	介入後	p-value
ROM, (°)						
股屈曲	120.0 ± 10.5	130 ± 11.0	0.08	117.0 ± 8.5	128 ± 11.5	0.10
股伸展	0.5 ± 1.0	0.8 ± 1.2	0.06	0.7 ± 1.4	0.9 ± 1.1	0.07
HHD, (kgf)						
股屈曲	20.5 ± 5.4	25.7 ± 4.0	0.04	20.1 ± 4.9	22.0 ± 3.5	0.11
股伸展	10.0 ± 6.7	17.0 ± 4.0	0.01	11.3 ± 8.1	15.0 ± 4.4	0.04
バランス						
BBS, (点)	32.0 ± 3.4	40.0 ± 5.0	0.01	31.2 ± 5.5	35.0 ± 4.0	0.25
TUG, (秒)	19.5 ± 2.0	17.0 ± 1.7	0.03	18.9 ± 2.5	17.1 ± 2.0	0.04

平均値 ± 標準偏差で示す。

ROM: range of motion, HHD: handheld dynamometer, BBS: berg balance test, TUG: timed up and go test.

問い合わせ先

群馬県理学療法士協会 学会部
林翔太

s-hayashiアットpazドットacドットjp

(メールを送信される際は、アットを@、ドットを.に変換してください)